



## 研修報告書

令和2年11月2日

小牧市議会議長 様

会派名 明正クラブ

代表者氏名 河内伸一

研修の結果を報告します。

### 記

#### 1. 日程

令和2年10月26日(月)

#### 2. 研修名

議会の広報公聴・質問力レベルアップ講座

市民と議会の「もやい直し」：議会広報と市民参加を考える

一般質問の機能を発揮させる：政策をとらえる質問力

#### 3. 参加議員

大上利幸

#### 4. 主催者

(株) 地方議会総合研究所

#### 5. 会場

京都テルサ東館2階「視聴覚研修室」

#### 6. 研修の目的

広報公聴・質問力のレベルアップのため

#### 7. 講師

土山希美枝氏 龍谷大学政策学部教授、博士(政治学)

## 略歴

北海道芦別市出身。2000年法政大学大学院社会科学研究科政治学専攻博士課程修了。博士（政治学）。2001年龍谷大学法学部助教授（2007年に職名変更により准教授）に就任。2015年4月政策学部教授。

専門は、公共政策論、地方自治、政治学。

## 著書共著

「対話と議論で〈つなぎ・ひきだす〉ファシリテート能力ハンドブック」、「質問力で高める議員力・議会力」、「質問力でつくる政策議会」

## 8. 主な内容

『市民と議会の「もやい直し」：議会広報と市民参加を考える』

「市民にとって議会はなにものか」から講話がはじまり、広報とは、その「議会とはなにものか」を伝える方法であり、その手段としての議会だより・議会報告会等の先行事例の紹介があった。広聴については、従来の市民の声を聴く会等ではなく、市民参加型の先行事例の紹介があった。また、コロナ禍でのIT・ICTでの開催の紹介があった。

『一般質問の機能を発揮させる：政策をとらえる質問力』

一般質問が議会及び議員にとってどのような機能を持つしくみなのかから講話がはじまり、項目として、一般質問というシクミが生かされていない2つの課題状況、一般質問の論点を構造化する、事実を固めるための情報収集、一般質問の「問いただしかた」を考える、つまり、いい「一般質問」とは、どんな質問か？、一般質問の機能を発揮させる、質問力を「政策議会」の資源に等の内容であった。

## 9. 感想と取組

『市民と議会の「もやい直し」：議会広報と市民参加を考える』

自治体は、市民が必要不可欠とする政策・制度をより良く整備するための機構である。その重要な政策・制度は議会があることによって良くなっていく必要がある。「議会はなにものか？」を伝え理解して頂くことが、広報公聴の重要な目的であると理解した。

広報の取組として、鷹栖町の事例が取り上げられた。鷹栖町では、

本会議の告知を週刊誌の中刷り広告のような表現方法で作成し、新聞折込として配布している。この方法は、議員の個人個人の魅力を記載することによって、結果的に議会の魅力につながるため、今後、本市議会でも検討していきたいと考える。（鷹栖町では、16名の傍聴が36名に増加した実績がある。）

公聴の取組として、岐阜県御嵩町の事例が取り上げられた。御嵩町の庁舎新改築の際に、政策案が執行部から出る前に市民との懇談会を実施した。

他の事例としては、沖縄や飯田市で実施されている課題共有型円卓会議があり、いずれも市民参加型の公聴＝市民との意見交換会である。

どちらも3～4名のワークショップとグループ発表で、グループの中に議員も入る市民参加型の公聴事例であり、本市議会でも取り入れたいと考える。

#### 『一般質問の機能を発揮させる：政策をとらえる質問力』

一般質問は、議会による「わがまちの政策・制度の課題について争点提起出来る場であり、市政にかかわるすべてのことを質問できる機会であると理解できた。

一般質問の取組としては、自分の質問で「まちはよくなるか？」そのために「何を問い質すのか？」を考え、その論点が監査機能を果たすのか、政策提案機能を果たすのかを考えながら実行したい。